

11.CCAによる都市計画

地域猫活動の現状

「猫による問題」は「人同士の問題」であることが多く、活動している地域の情報など明らかにされていないことが多い。地域のために行われている活動であるに関わらず、あまり認知されていない。

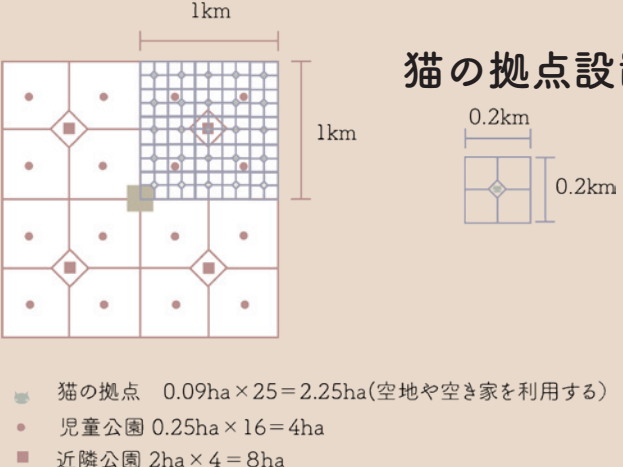
猫主体の地域づくり

猫主体で地域を考え、猫によって地域内をつなぎ、動物にやさしい地域へ。動物にやさしい地域は人にも優しい地域へとつながる。

猫のための拠点をつくることの利点

飼い猫と地域猫の行動の比較より、明確な拠点のある飼い猫のほうが地域猫より居場所が限られ、行動範囲も狭い結果となった。拠点を作ることで、人にとっても管理がしやすなることが考えられる。

猫の拠点設置規準



猫除け対策も

猫が活発になる時間に超音波によって行動制限するなど、猫除けも上手く活用していく。
例) 16:00~19:00
0:00~5:00は使用する
超音波は人には聞こえないが、気分が悪くなる人もいる。なるべく、人が活動する時間には発生しないよう設定するなど工夫をする。

猫の行動の把握

猫が活発になりやすい夕方は猫が地域内を巡回しているため、猫が嫌いな人や苦手な人は、猫の行動圏に夕方には避けるなど、意識的に猫を避けることになり、ストレスなく過ごせる。

猫の拠点

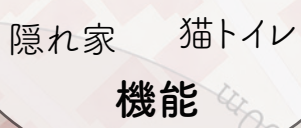
猫の行動圏に合わせて、30m x 30m程度の区画で拠点をつくる。200mごとにグループをつくる。地域にある空地や空き家を利用する。

グループ内の主な行動範囲

拠点から100m圏内の主に猫が活動する行動圏。

他グループと縄張りが被る範囲

縄張りが被ってしまうところは、猫が鉢合わせ、騒音被害や糞尿被害などが多いことが考えられる区域。色が濃い場所は特に要注意区域であり、猫による被害対策を行う。



隠れ家 猫トイレ

機能

空き地・空き家の活用

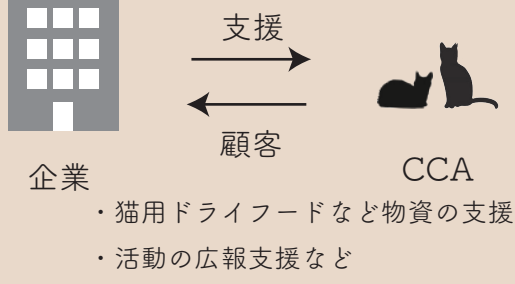
地域に広がる空き地の活用をしながら、地域内に猫の拠点を分散させていく。本研究の調査対象地でも、空き地や空き家が目立っており、今後、さらに増加することが考えられるため、CCAで活用することで放棄されるのを防ぐ。

猫の隠れ家

猫の拠点から100m圏内や縄張りが被るエリアに小さな居場所をつくる。輪に入れない猫や、周辺での糞尿被害を軽減するためにトイレを設置する。

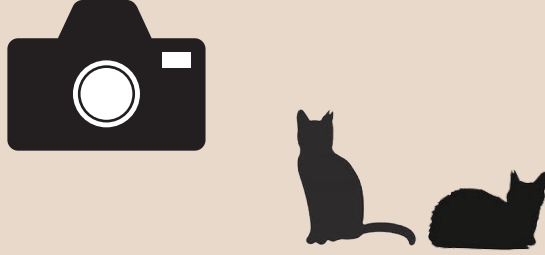
近隣会社との連携

社会貢献活動



ペット関連企業と連携し、CCAを行う。
企業は社会貢献活動としてCCAを支援し、地域と関わることで新たな顧客獲得へ。

広報活動



地域猫の成長記録や活動の様子等を定期的に地域内で報告することで、地域住民もCCAを認識し、活動内容への理解につながり、肯定的に捉える人も増えることが考えられる。

継続できる活動仕組み



CCAは活動者不足の課題を抱えている。猫を飼育したい人が活動へ参加を促す必要がある。猫が集まる拠点を地域の公な場としてつくることで、猫に興味がある人が集まり、活動へ参加するきっかけをつくる。

活動ルールの徹底



置き餌をしないや給餌後は清掃をするなど、地域美化にも取り組むことで、地域猫を管理するだけでなく、地域がさらに住みやすくなることが考えられる。そのためには、ルールづくりを行い、明確に示す必要がある。

CCAによる期待される効果

人にも猫にも良い影響を与える



多頭飼育崩壊防止

多頭飼育崩壊が起こる要因である様々な現代課題を地域の人が関わることによって、相談できる場所ができ、結果的に多頭飼育崩壊なども未然に防げることに。



猫の虐待防止

増えている猫への虐待行為。公園などで発生することも多く、地域猫として管理されることで、地域住民が猫の異変に気づきやすく、動物愛護事件防止に。



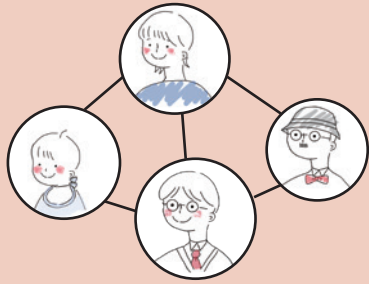
地域内の散歩で健康的に

本研究で、猫がいることで、地域内を散歩するきっかけとなっている結果が得られた。地域内に点在している猫の居場所があることで、猫目当てに散歩することで健康的になることも考えられる。



地域防犯に

地域猫の様子を確認や管理するために、地域を巡回することで、結果的に、地域防犯にもつながる。



地域内でつながりが生まれる

親子で参加することで、地域内でつながりが生まれ、地域単位での子育てが確立することが考えられる。



教育効果の見込み

子供がCCAへ参加することで、思いやりが育まれ、教育に効果的であることが考えられる。さらに、猫だけではなく、地域の人も関わるきっかけとなり、コミュニケーション能力を学ぶことにもなる。